

高精細画像のクラック自動抽出による構造物調査システム FOCUS- α

株式会社アルファ・プロダクト



内容と特徴

- ①高精度で撮影した画像から、クラック幅・長さを最小 0.1mm 単位で自動抽出する。
(自社開発ソフト:コンクリート構造物のクラック自動抽出システム、NETIS:KT-130046-V)
- ②正確なクラックの状況と画像から、浮き・剥離箇所を検知可能。
- ③遠方(最大 70m) から撮影できるため、接近が困難な場所でも検査可能。
- ④ソフトによる自動抽出は作業員に依存せず、経年変化の確認に利用できる。
- ⑤画像情報も得られるので、凍害等の劣化も確認できる。
- ⑥トンネル用撮影装置 FOCUS α -T、空港滑走路調査装置 FOCUS α -T (N E D O 受託開発)
- ⑦国土交通省の 2 件の技術公募で採用。

従来技術に対する優位性

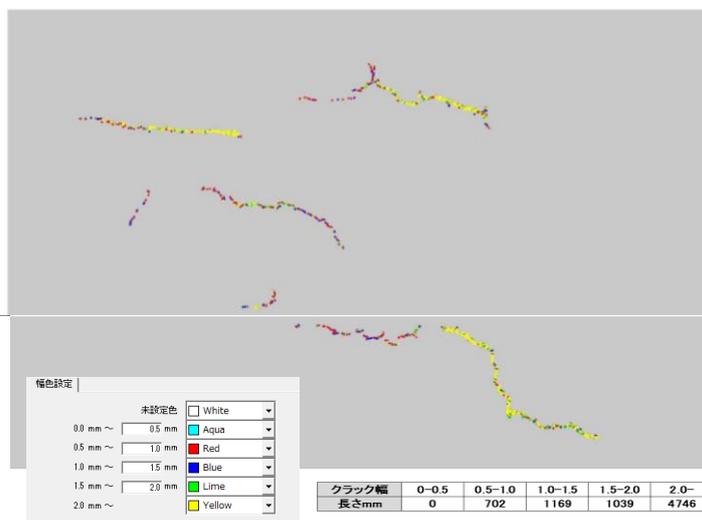
従来の目視に比較してはるかに高精度であり、経年変化も観測できる。

正確なクラックの状況と分布、およびクラックのパターンが把握できる。

予想される効果・応用分野

トンネルその他構造物の調査

※共同研究者：大阪工業大学小堀研一教授



左図は画像から自動抽出し、幅別に色分けされたクラックの表示例。



トンネル用 FOCUS-T



滑走路用 FOCUS-R